

2018年(平成30年)2月7日

スポーツを通じて世界にはばたく逞しい人材を育成  
**平成30年度 YMFS スポーツチャレンジ助成  
対象者(26件 総額 2,704万円)を決定**

当財団(YMFS)は、平成30年度YMFSスポーツチャレンジ助成制度の助成対象者を決定しました。本制度は「スポーツチャレンジ体験助成」、「スポーツチャレンジ研究助成」の二つのプログラムで構成され、平成30年度は第12期生となります。

助成金額内訳は「スポーツチャレンジ体験助成」が12件・1,315万380円、「スポーツチャレンジ研究助成」が14件・1,389万3,540円となり合計26件・総額2,704万3,920円になります。

なお、3月1日(木)に「平成30年度(第12期生)助成金贈呈式」を静岡県内にて開催予定です。

平成30年度スポーツチャレンジ助成の概要

プログラム	申請件数	採択件数	助成金額(計)
スポーツチャレンジ体験助成	54件	12件	1,315万380円
スポーツチャレンジ研究助成	56件	14件	1,389万3,540円
計	110件	26件	2,704万3,920円

スポーツチャレンジ助成制度とは？

本制度の特徴は助成金贈呈だけに留まらず、PDCAサイクルを基調としたYMFS独自のサポートプログラムを通じて助成対象者の成長を支援することです。

※平成30年度(第12期生)の活動期間は、平成30年4月から平成31年3月です。

<YMFS独自のサポートプログラムについて>

- スポーツチャレンジャーズミーティング(3月):活動開始に先立ち、対象者が一堂に会して、前年度対象者による成果報告やテーマ討論会等を通し、自身のチャレンジ意欲を高める機会を提供。
- 四半期報告(3ヶ月毎):活動報告に対し個別にアドバイスを返す事で各人の活動をフォロー。
- 中間報告会(9月、10月):半期経過時点の振り返りと残りの期間に向けたアドバイスを提供。また、座談会を併催し共に「語り」「学び」「考える」事を通して目標達成の糧とします。
- スポーツチャレンジャーズミーティング(翌年3月):一年間におよぶチャレンジの集大成として成果報告を行い、助成対象者同士がお互いを刺激し次へのチャレンジへ英気を養う場として開催。

※この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。(担当:山本)

平成30年度(第12期生)スポーツチャレンジ体験助成 対象者一覧 (平成30年2月1日現在)

- ・「体験助成」はアスリート・指導者・審判など各種体験活動に対して助成金を交付するもので、3つのカテゴリで構成されています。
- ・国際レベルでの実績を有する選手等が対象の「アドバンスド(上限150万円)」、国際レベルでの活躍を目指す「ベーシック(上限100万円)」、ジュニア世代の国際大会で実績を有する「ジュニア(上限50万円)」があります。

区分	氏名(年齢)	種目	チャレンジテーマ	所属
ジュニア	しのはら きり 篠原 輝利 (14)	自転車ロードレース／選手	ツールドフランスで総合優勝をする為に中学卒業後からフランスで勝負!	茨城町立明光中学校
	むらかみ 村上 レイ (14)	アイスホッケー／選手	北米ジュニアアイスホッケーリーグで活躍できる選手になるための挑戦	苫小牧市立和光中学校
ベーシック	うえむら ゆうき 上村 勇貴 (23)	陸上(障害者スポーツ)／選手	陸上 800m で、アジア記録の更新、国際大会でのメダル獲得。そして、東京パラリンピックへの挑戦	日本知的障がい者陸上競技連盟
	かみはし けいしん 神箸 渓心 (17)	スノーカー(ビリヤード)／選手	スノーカー世界チャンピオンへの挑戦～本場イギリスに渡り、さらなる高みへ突き進む～	日本スノーカー連盟
	まつした あさか 松下 朝香 (29)	サッカー／審判員	世界で活躍するサッカー審判員を目指し挑戦する	株式会社三勢
	みしま れん 三島 廉 (20)	カヌースラローム／選手	カヌースラローム K1 で五輪初のメダルを獲得するために、2018 年世界選手権大会で表彰台に挑む	日本体育大学
	わかつき あらた 若月 新 (17)	スキー・アルペン／選手	アルペンスキージュニア世界選手権に出場し、上位入賞を果たす	北照高等学校
アドバンスド	きひら りか 紀平 梨花 (15)	フィギュアスケート／選手	北京オリンピック出場を念頭に GP シリーズ、全日本選手権、四大陸選手権、世界選手権で表彰台を目指す	関西大学カイザーズ フィギュアスケートクラブ
	きみしま ありさ 君嶋 愛梨沙 (22)	ボブスレー・陸上短距離／選手	ボブスレーと陸上の二刀流で、日本で5人目となる夏冬両五輪出場を目指す	日本体育大学
	たかしま りさ 高嶋 理紗 (18)	フェンシング・サーブル／選手	国際大会で経験を積み、フェンシング・サーブル種目において東京オリンピックでのメダル獲得を目指す	法政大学
	ともの ゆり 友野 有理 (17)	卓球(障害者スポーツ)／選手	今の世界順位をさらに上げて、東京パラリンピック出場、メダル獲得を目標とする	日本肢体不自由者卓球連盟
	みうら ゆうき 三浦 優希 (21)	アイスホッケー／選手	日本人史上初の NHL プレイヤーとなり、アイスホッケー日本代表を長野大会以来の五輪出場へ導く選手となる	日本アイスホッケー一連盟

平成30年度(第12期生)スポーツチャレンジ研究助成 対象者一覧 (平成30年2月1日現在)

・「研究助成」は、スポーツにかかわる学問、研究活動に対して助成金を交付するもので、2つのカテゴリーで構成されています。

・それぞれ、研究職として活動に従事する研究者を対象の「基本(上限 120 万円)」、大学院博士課程に在学中もしくは学位未習得の若手を対象の「奨励(上限 60 万円)」があります。

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ	所属
奨励	おおつか しゅん 大塚 俊 (25)	自然科学	深筋膜は筋力発揮の補助装置としての機能を果たし得るか	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
	みずの さひろ 水野 沙洸 (26)		高強度運動後における超低温環境(-140℃)への短時間(3分間)の身体曝露の効果	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
	やまぐち しょうた 山口 翔大 (25)		伸張性運動に伴って生ずる筋損傷に対する非侵襲的な新規バイオマーカーの妥当性の検討	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科
基本	あとう さとる 阿藤 聡 (26)	自然科学	骨格筋の核数はレジスタンス運動による筋タンパク質合成の新たな規定因子となり得るか?	立命館大学大学院 スポーツ健康科学研究科
	え ま りょういち 江間 諒一 (31)		瞬発力とバランス能力の加齢変化をもたらす主要因の特定: 足関節底屈筋に着目して	芝浦工業大学大学院 理工学研究科
	さかい しん 酒井 紳 (31)		女子競泳選手の跳び出し水平速度向上を目指した台上動作メカニズムの解明	筑波大学 体育系体育センター
	たかはし ゆ み こ 高橋 祐美子 (31)		運動後の骨格筋グリコーゲン回復に対して、糖質エネルギー利用を抑制させる栄養素は有効か?	東京大学大学院 総合文化研究科
	たけだ こうへい 武田 紘平 (32)		脱トレーニングと骨格筋のエネルギー代謝	筑波大学 体育系
	もりしま たくま 森嶋 琢真 (30)		レジスタンス運動により低下した血管内皮機能を回復させる新規の運動プログラムの開発	法政大学 スポーツ研究センター
	わたなべ たかみつ 渡部 喬光 (36)		イップスの脳科学: 注意による反応速度の低下をもたらす神経ダイナミクスの解明	University College London
	おかい り か 岡井 理香 (34)		アスリートパスウェイにおけるデュアルキャリア教育促進プログラムの開発と実践	広島大学 教育学部健康スポーツ講座
	こぎ そ こうへい 小木曾 航平 (34)		タイ農村地域社会におけるロングボートレースの文化機能に関する人類学的研究	早稲田大学 スポーツ科学学術院
	たまい なお 玉井 奈緒 (39)		車いすバスケットボール選手における競技時の座圧と皮膚ダメージとの関係 —褥瘡予防ケアプロジェクト—	東京大学大学院 医学系研究科
もりた さとし 森田 哲史 (38)	体育授業における発達の段階に応じた指導計画の開発 —低・中・高学年における系統的な投の運動指導—	埼玉大学 教育学部附属小学校		